

棚田をフィールドとした 企業社員研修の効果検証

～新潟県十日町市の星峠の棚田における実証実験からの考察～

2025/3/4

東日本電信電話株式会社

経営企画部 地域循環型ミライ研究所



地域循環型ミライ研究所(ミライ研)とは

- 「**地域循環型社会の共創**」というパーパス実現に向けて、ICTによる地域課題解決にとどまらない、新たな地域の価値創造をめざす**地域シンクタンク**として設立（2023年2月1日）
- 地域の暮らし・こころに深く根付く **社会価値「文化」、「食」、「自然」の保存・活用を重点研究** 領域として設定
- 持続可能な地域の実現に向け、**社会価値と経済価値が補完・循環するモデル**を調査、研究

STEP-1

地域の資産・魅力の調査・研究



STEP-2

地域の人びとを繋ぐ



STEP-3

地域の政策の立案・提言

課題解決を超えた
価値創造による持続可能な
地域社会の実現

地域社会への実装に向けた支援・デジタルを活用したロングタームな伴走



これまでの研究活動

「関係人口創出」を主要研究テーマに、二年間で関係人口創出に関する 4本の実証レポート を発出

【2023年度】

- **ワデュケーション※施策が地域や参加企業にもたらす社会的価値・経済的価値についての検証**

https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/pdf/20240124_05_02.pdf

※ワデュケーションとは、work(仕事)、education(地域のことを学ぶ教育)、vacation(休暇)を組み合わせた事業のことを指し、一般用語のワーケーションの一形態として位置づけられる。



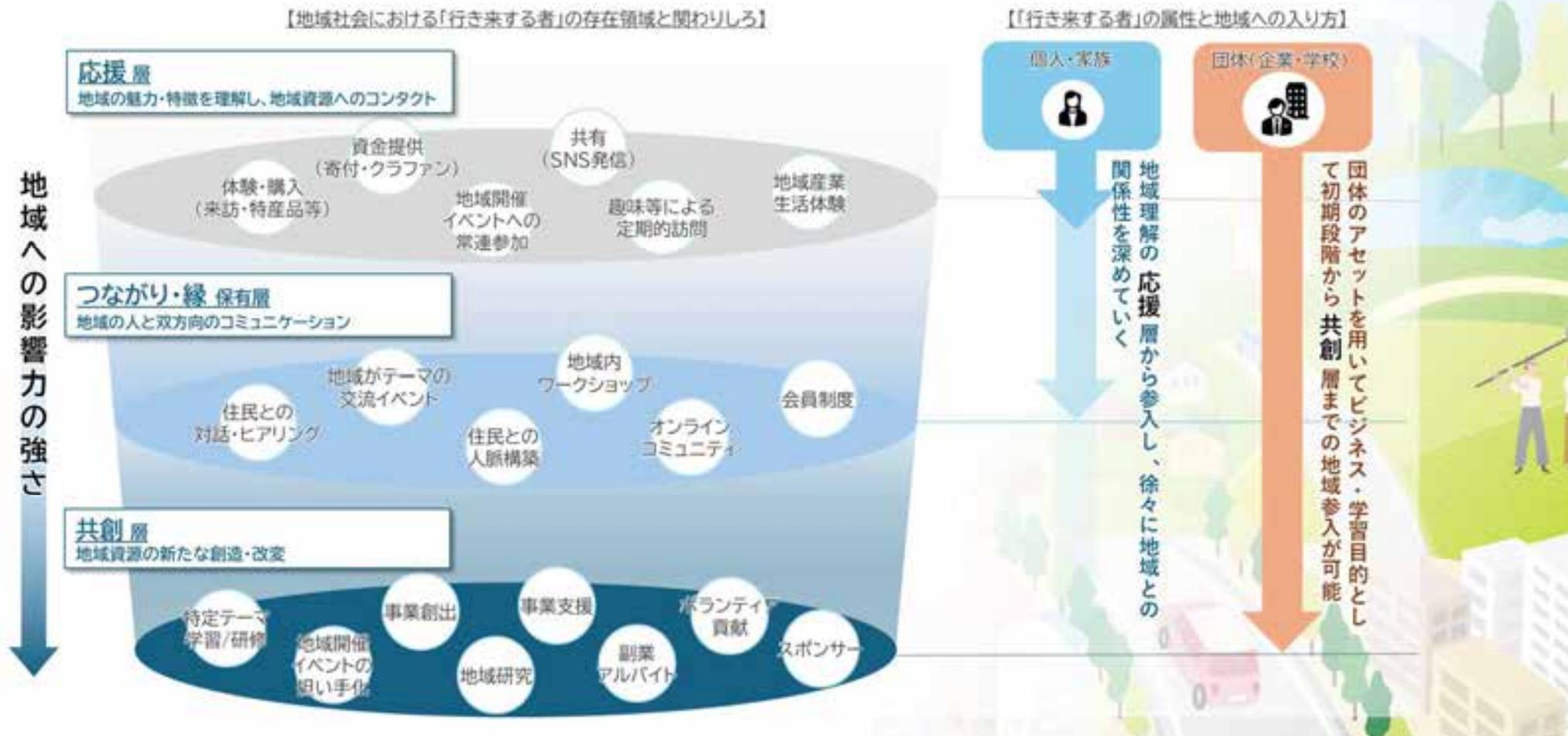
【2024年度】

- “祭り”を起点とした継続的な関係人口創出に関する考察 ～秋田県鹿角市における”ワデュケーション”実証からの示唆～
https://www.ntt-east.co.jp/regional_circulation/pdf/report_2024_01b.pdf
- 地域越境型探究学習を起点とした関係人口創出に関する考察 ～長野県喬木村における実証からの示唆～
https://www.ntt-east.co.jp/regional_circulation/pdf/report_2024_02a.pdf
- **棚田研修を起点とした関係人口創出に関する考察 ～新潟県十日町市における実証からの示唆～**
https://www.ntt-east.co.jp/regional_circulation/pdf/report_2024_03a.pdf



ミライ研が考える「企業が地域に關与する意義」

アセットを用いて「共創層の關係人口」を短期間で生み出す多様な「関わりしろ」を保有



本日ご紹介する取組み

棚田研修を起点とした関係人口創出に関する実証～新潟県十日町市～

担い手の不足に直面している棚田をフィールドとした、将来のCSV経営を担う人材を育成する企業研修プログラムを実施

社会課題の縮図ともいえる棚田における研修は、企業の人材育成のみならず、実施地域における関係人口の創出(通い農実践者の創出)効果も得られるのではないかと、この仮説の基、現地で活動されている社会起業家である

① 地域おこし協力隊/株式会社里山パブリックリレーションズ代表の星 裕方氏

② 株式会社HOME HOME NIIGATA代表の井比 晃氏

と連携プロジェクトを立ち上げ、検証を行った



星 裕方氏



井比 晃氏

【実施概要】

実施地域： 新潟県十日町市松代地域

実施期間： 2024年8月～10月（現地研修日程：9月10日～12日）

実施目的： 棚田をフィールドとしたCSV研修プログラムがもたらすCSVマインドの醸成効果および実施地域に対する関係人口創出効果に関する検証

参加者： NTT東日本、NTT-ME、MURCの社員13名

実施内容： 2名の社会起業家と連携し、棚田研修プログラムの企画段階から取り組み、研修効果の測定や参加社員の当該地域への意識変容の様子を調査した

検証内容： 事業モデルの有効性、諸課題、関係人口としての意識・行動変容、地域・人にもたらす多面的価値、ウェルビーイングへの影響



棚田研修のねらいと仮説

棚田をフィールドとした企業の次世代経営リーダーを養成するためのプログラムを通じて、参加社員の当該地域への「通い農」実践者への変容も期待できるのではないか？



(参考)研修プログラムの全体像

		8月		9月		10月	
		事前学習① (8月中旬)	キックオフ (8/28)	事前学習② (~9月頭)	現地研修 (9/10~12)	事後振り返り (10/30)	参加者への 意識調査のアンケート/ 
目的		社会課題解決のための アプローチ方法を理解	プロジェクトに関わる 自身の目的を設定	地域を取り巻く課題や 環境を理解	課題が“我がゴト”になり 想いとロジックが重なる	課題への向き合い方が変 わり真のリーダーに近づく	
学習項目	CSV研修	<ul style="list-style-type: none"> 全体概要の確認 動画の視聴 <ol style="list-style-type: none"> CSVリーダーシップ パーパス経営の浸透 エコシステムの重要性 	<ul style="list-style-type: none"> CSVリーダー学習の復習 SDGsゲームによる座学との紐づけ 現地ステークホルダーの紹介 自身の課題意識の共有 	<ul style="list-style-type: none"> テーマとなる地域課題および関連ステークホルダーを取り巻く現状を調査 	<ul style="list-style-type: none"> リアルな課題やその課題を取り巻く環境をステークホルダーの目線に立って疑似体験 (例:地域おこしロールプレイ、棚田の農作業体験) 受講者が事前学習②で考えたことを踏まえて、ステークホルダーを交えて意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 現地研修で得られた学びを踏まえ、自身の職場における課題やステークホルダーとの関係性について整理 CSVリーダーとしての今後のアクションプランやマイパーパスについて発表 	
	棚田実習	<ul style="list-style-type: none"> 「現地のステークホルダーに伝えたいこと・教わりたいこと」を作成 	<ul style="list-style-type: none"> 日本における棚田の現状についての紹介 暮らし・文化としての「農」の紹介 十日町概要および星峠の棚田の実情についての紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 現地研修に向けた課題の洗い出し・共有 農に関連する現地のステークホルダー理解 滞在研修に向けての意気込みを記載 	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー(農業事業者、地域の農家さん) 米になるまでの行程見学 棚田での稲刈り実習 棚田存続に向けての課題の理解(実情、法制度等) 	<ul style="list-style-type: none"> 「通い農」に対する諸課題や解決策についてディスカッション 	

(参考)現地研修の全体像

Day-1

地域おこしロールプレイ研修による
地域課題の疑似体験

10:00

まつだい駅 集合



10:30~

ふるさと会館
・イントロダクション



14:20~

ふるさと会館
・地域おこしロールプレイ研修①



16:30~

十日町市役所
・行政職員との対話



18:30~

棚田ステーション
・まとめワークショップにて事前学習とのギャップや気づきの整理

Day-2

多様な視点での課題探究
稲刈り体験を通したチームビルディング醸成



09:00~

NouLandライスセンター見学
・広い面積を耕作する農業法人のモチベーションや課題の発見

11:00~

IZUMIYA
・星峠の棚田の耕作農家や宿泊事業者と交流
・農家視点での課題の理解



13:00~

稲刈り体験
・農作業の楽しさを味わいながら連携作業によってチームビルディング
・棚田について実体験を通して深く理解する



18:30~

棚田ステーション
・まとめワークショップにて事前学習とのギャップや気づきの整理



20:30~

温泉・交流会

Day-3

現地研修を通した
学びのアウトプット

08:45~

棚田ステーション見学
・移住コンシェルジュ、商店街観光DMO等地域の方と鹿角の魅力や課題について検討



11:00~

ふるさと会館
・まとめワークショップにて現地研修で感じたことや課題感を整理し、全体共有



9:30~

ふるさと会館
・地域おこしロールプレイ研修②



13:45~

まつだい駅 解散



実証成果① ～CSVマインド醸成効果～

参加者13名に対してアンケートを実施し、分析結果から以下の考察が得られた

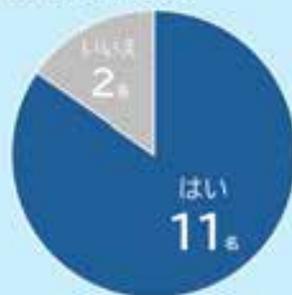
- 参加者**全員**が「**中山間地域が抱える社会課題についての解像度が高まった**」と回答
うち11名に「**新たな視野・視座を獲得できた**」等リーダーとしてのビジョンのアップデート効果も確認できた
- 13名中**11名**が「**職場でのパフォーマンス向上につながる**」と回答
現業における課題解決やパフォーマンスの向上、新規事業の創出にも寄与することが期待できる

参加者アンケート結果から一部抜粋

中山間地域が抱える社会課題についての解像度が高まったか？



研修を通じて新たな視野・視座を獲得できたと思うか？



職場でのパフォーマンス向上につながると思うか？



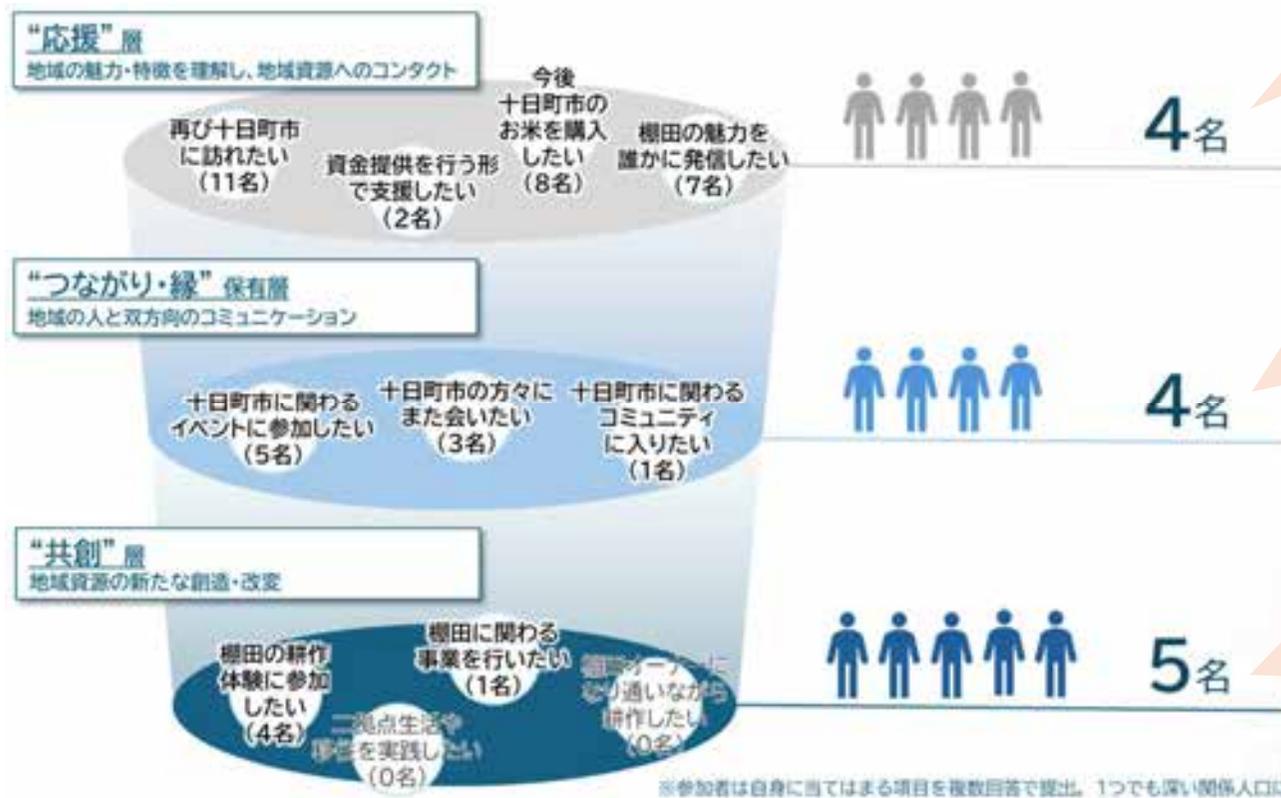
将来的な人材開発施策や事業開発ノウハウとして活用できそうか？



実証成果② ～関係人口(通い農)創出効果～

- 参加者全員が十日町市に対する“応援”意欲を示した
- 13名中5名に“共創”層にあたる意識変容も見られた

【研修終了後に実施した十日町市松代地域に対する参加者の意識変容調査から】



※参加者は自身に当てはまる項目を複数回答で提出。1つでも深い関係人口に当てはまる選択肢を選んでいたら、深い方の層に分類

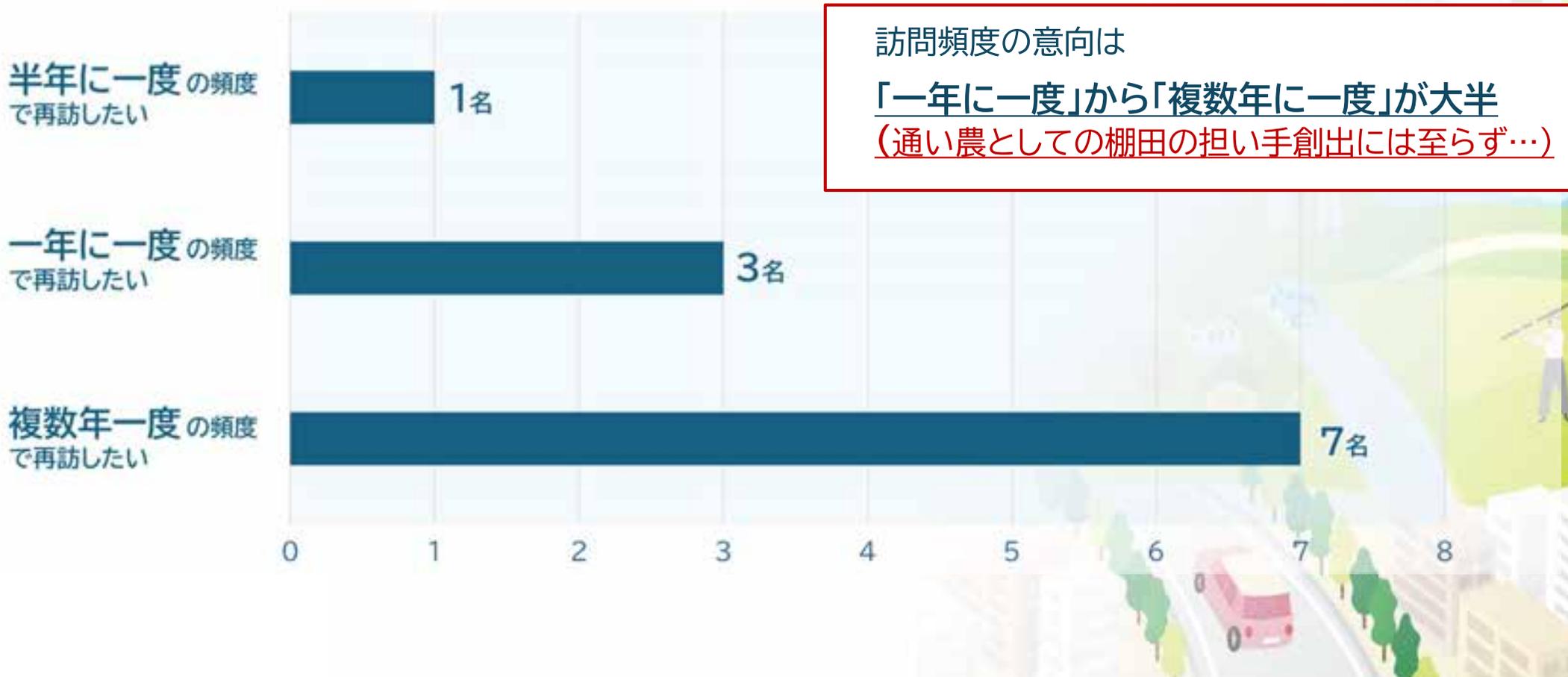
- 改めてゆっくりとプライベートで訪れたみたい。
- 普段の生活で十日町や棚田について耳や目で触れる機会があれば一度立ち止まって自分なりの関わり方をしていきたい。
- 棚田の景色が大変良く、また今度行きたいと思った。

- まちづくり担当として担い手不足に何か解決策を提示していきたい。
- 風景や食事、人のあたたかさを感じた。
- 十日町駅で観た美術館や松代の他の観光資源をじっくり見たいと思った。
- 地域の方々が歓迎してくれたように感じた為、地域の活動に参加してみたい。
- 今回、地域や地域の人との繋がりを通じて、私自身十日町が好きになった。その意味で、観光や課題解決で貢献したいと感じた。

- 考え方や人柄など、刺激を受け関係を続けていきたいと思う方が多かったです。年に数回訪れ、稲刈りやお祭りのお手伝いなど、つながりを持ち続けたい。
- 地域おこし協力隊星さんの思いや人柄に共感し、また会いに行きたい。
- 私自身十日町を訪れて宝がたくさんあると身をもって感じた。研修を通じて、地域について課題等含めて考えを深めたことで、十日町に対する思いが生まれた。

実証成果③ ～関係人口(通い農)創出効果～

再訪意欲を示した参加者11名へ「どのくらいの頻度で十日町に再訪したいか？」と質問した結果:



実証から見えてきた課題

棚田研修は企業の人材育成としては有効、かつ、通い農実践者創出の入り口になりえる
しかし、研修の効果を最大化し通い農への移行を促進するための以下の課題も浮き彫りとなった

■ 人との多様な関わりを魅力としたプログラム設計

- ・ 調査結果から「地域内で認識する人数が多いほど地域との関係性が深くなる」という傾向が伺えた
- ・ より多くの地域住民との交流機会の確保が重要

■ 現地ならではの体験創出

- ・ 「宿泊施設」や「交通手段」に関して「やや満足以下」の回答有り
- ・ 「農」に関係のない施設においても、そこでしか味わえない体験や地域との関係性が創出されるプログラム設計、地域内インフラ整備の必要性有り

■ 研修コンセプト(社会課題解決型のリーダー研修)を踏まえたプログラム編成

- ・ 座学研修で得られた知識と現地研修の関連性を明確にする工夫

■ 副業人材による通い農の普及・促進に向けたICT技術の活用

- ・ スマートインフラの整備などDXを活用した通い農の活動支援の仕組みづくり
- ・ オンラインで参加できる現地コミュニティの開設
- ・ リモートワークが可能な域内インフラ施設の整備

本実証を踏まえた関係人口(通い農)創出に向けた提言

本実証の成果を踏まえ、以下の通り地域固有の資源である棚田を活用した関係人口の創出に向け複数の地域を横断し、国・地域・民間が連携のうえ取り組むべきことを提言します

【地域と都市部のコミュニティ構築に関する提言】

- 棚田研修は人材育成のみならず個人のウェルビーイング向上に繋がる
- 企業だけではなく、都市部に存在する学校や市民団体等、様々なコミュニティにおいても通い農に繋がる棚田研修実施と支援策(交通手段の確保等)を検討すべき。加えてICT活用の可能性も十分に検討すべき
- 棚田保全に対する各種支援策の拡充(森林環境税、森林環境譲与税等といった税制度の活用検討)

【企業における人材育成や地域事業の成長などに関する提言】

- 棚田に代表される地域資源・地域課題を活用した人材育成プログラムの開発
- 人材育成のみならず、その地域における新たな事業開発の可能性も視野に入れた、より積極的な研修プログラムの展開
- 企業による地域で活躍する社会起業家の不足機能の補完、社会起業家同士のマッチング促進による地域発展への貢献

【ステークホルダーの皆様と考えたいこと】

- ① 物理的距離を所与の課題とした際の“通い農”への参入障壁の解消
～ICTを活用した農業関係人口の維持(オンラインコミュニティ、IoTアプリ等)～
- ② より多くの企業が参画する地域一体での人材育成プログラム開発
～多種多様なプレイヤーの実践による成果・課題を踏まえ全国ガイドライン策定やモデルケースを横展開～
- ③ これらの取組みの全国発信や“通い農”の社会実装を後押しする仕組みへの反映
～財政、人材、情報マッチング支援等～

農山漁村をフィールドとした社員教育機会の創出は、地域内外の人材・資金・データ等の循環を促進し、一次産業の保存・継承や、通い農や副業人材の創出・拡大・活性化にも繋がるのではないかと